

第7期きのくに教育審議会第1回会議 委員発言概要 (R4.7.21)

| 議題 | カテゴリ | 発言要旨 |
|------|-----------|--|
| 成果検証 | 全般 | <ul style="list-style-type: none"> ・各項目に数値目標があり、成果を「見える化」して結果を分析しており、いいやり方。ただし、民間の経済活動と教育では根本的に違うところもあり、数値目標を立てると、「数ありき」になったり、「数字合わせ」になったりする。教育の面で数値が先行し数合わせになってしまうと、目に見えないところで弊害も出るのではと懸念する。そういうことを前提にしながら、目に見える目標を設定し、検証していくことは素晴らしい。 ・社会教育は数値で表せない部分がある。第4期計画では、数値目標にするものと、そうではない方法（達成度・満足度など）で評価するものとに分けるとわかりやすいし、大事なこと。数字が全てではない。 |
| | 豊かな心 | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育について、規範意識が高だけでなく、その規範ができた背景や現代的意義も踏まえたクリティカル（批判的）な視点や思考の要素を入れていければよい。 ・情動的な心はとても大事。 ・子供に言うことを聞いてもらいたいという大人の思いが、豊かな心という形で表現されていないか。 ・豊かな心について、指標の内容は浅薄な感じがする。人間性には、高い目標に挑戦することや協調性など様々なことが含まれる。 |
| | 豊かな心・人権教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育との関係性の中で道徳教育を見ていくことが大事。 |
| | ふるさと教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと教育の施策を進めてもらいたい。 ・ふるさと教育については、和歌山の魅力は理解できているが、その魅力をどうやって発信していくかを考えることを教育に盛り込むとよい。 ・ふるさと教育も、県で盛んに言ってくれていい傾向。 ・大卒の新入社員に就職の動機を聞くと、「地域を大切にしたい」「生まれたところで働きたい」と言っており、ふるさと教育が生かされていると感じる。 |
| | 健やかな体 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康教育について、食育や学校給食だけでなく幅広いものがあるので、様々な角度から見ていく必要がある。 ・小学校低学年の体育の授業が、「スポーツが好き」「体を動かすことが好き」というものになっていない。できる喜びを早期に味わわせたい。そのためには、体育の授業の充実や、体育の指導を得意としない先生をサポートする仕組みの構築があるとよい。 |
| | いじめ | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ解消率が低くなっているのが気になる。成果検証では、いじめの様態が複雑化・不透明化しているというが、どういうふうに対応していくのか。 ・いじめについては、いじめる側の辛さ・大変さに寄り添って同情を持ちながら対応すれば、その子がいじめから解放されるのではないか。 |
| | いじめ・不登校 | <ul style="list-style-type: none"> ・SC・SSWの関与度がわからない。数値目標は、配置率に成果を置くのではなく、稼働率やどういう形で解決に至ったかという、具体的な関与度があらわれる方向性が出てくれば見やすくなる。 |
| | 不登校 | <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の対応について、先生の意識がSCやSSW任せになっているような感じを受ける。 ・不登校の対応は、予防に重点を置いた方がはるかに労力は少なくて済む。 |
| | 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育にインクルーシブ教育の観点をに入れてもらえたら。 ・特別支援教育についての最近の国際的な概念は、インクルーシブ。そういう内容に触れるかどうか、もう一度検討してもらいたい。触れないのであれば、それも一つの結論として大事だという気がする。 ・障害のある子供たちにとって、その時々自立は大切だが、自立を強調しすぎず、生涯にわたって支援は必要だという観点は、非常に大事なポイント。 |
| | キャリア教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・県内就職率に関して、県内企業への就職率が必ずしも指標にならない場面もある。実際、リモートワークで日本全国で働ける企業ができてきている。県内にいながら、様々な仕事ができるという新しい働き方を教育に盛り込むことができれば面白い。 ・農業教育について、農林大学校との5年一貫教育は良い方向。 ・食料自給率37%では国は危ない。ふるさと教育同様、農業や食の大切さを教育する機会を増やしてもらいたい。 |

| 議題 | カテゴリ | 発言要旨 |
|-------------|---|--|
| 成果 検証 | 様々な教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・第4期計画には、金融機関との取引に困らないような教育をしてほしい。金融機関からの出前授業も有効だと思う。 ・18歳成人を踏まえ、18歳で契約関係の主体となるという教育もしっかりやっておいたほうがよい。 |
| | ICT・DX | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、オンラインを活用して優れた指導をどこでも見られる仕組みなど、コロナ禍を前向きに捉えた視点として第4期計画に入れていけたらよい。 ・情報化の推進について、コロナ禍でICT環境が進んだ。今後は、パソコンによるモノづくりやモノを動かす取組を進めていけば、子供たちの興味喚起につながる。 |
| | コミュニティ・スクール | <ul style="list-style-type: none"> ・コミスクについて、学校運営協議会どうしの横の連携を進めれば、相互に刺激あって良い取組も広がることが期待できる。 |
| | 教職員の勤務環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の長時間勤務について、教員の仕事は先生方の熱意に支えられている。どうか先生方の熱意を削がない形で、この問題の解決を進めてもらいたい。 |
| | 施設設備 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校のトイレの洋式化などの環境整備（洋式化やトイレの入り口のドア設置など）を進めるべき。環境整備は子供たちの学習への影響が非常に大きい。 |
| | スポーツの振興 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツキャンプの誘致はよくやっている。 |
| | 競技力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・国体順位で和歌山のような自治体が20位台を維持するのは大変なこと。これからは、オリンピック種目になっている若者のスポーツ、スケートボードやサーフィンなどの新しい種目（アーバンスポーツ）を促進していく視点を持つておくことが大事。 |
| | 文化芸術の振興 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツについては紙幅が割かれているが、スポーツが苦手な子もいるので、文化芸術に親しむ環境の充実も広げていけたらよい。 |
| | 男女共同参画 | <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画の指標に、具体的な指標（例：男女混合名簿の実施率など）があればよい。 |
| 男女共同参画・人権教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画について、LGBT、ダイバーシティ&インクルージョン等の視点も、ある程度第4期計画に盛り込めれば、人権の先進県として和歌山も発展できる。 | |

| 議題 | カテゴリ | 発言要旨 |
|------------------|--|--|
| 次 期 計 画 | 全般 | <ul style="list-style-type: none"> ・子供の心に沿った形で進めることが大事。子供の権利条約に基づいて、大人が考えた方向性ではなく、子供の権利を意識して教育の在り方を考えてもらいたい。 ・学校が楽しくない子が増えており、学校自体の楽しさを求めることが大切。 ・「不確実性（VUCA）の時代」の中で、どういう人材を育てるか、どういう人材だったらやっていけるかという観点からの教育が必要。 |
| | 幼児教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育は、幼児期から始まっている。就学までに育てほしい具体的な子供の姿を具体的に示すような内容になればいい。和歌山の教育の基盤づくりという形で、重要視して行ってほしい。 |
| | 確かな学力 | <ul style="list-style-type: none"> ・私立は経営的に定員を減らせない中で、学力層が幅広くなっている。そんな中、多様性や、その子の得意分野を伸ばしていくうえで、個別最適な学びの実現が、私学だけでなく、これからの和歌山県全体の課題。ICTの活用も含め、一人一人に応じたカリキュラムを作ることも必要になるのではないか。 |
| | 豊かな心 | <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな心について、決まりをただ守るのではなく、この決まりは守るべきものかどうか判断できる力を身に付けてもらいたい。 ・幼児期から性教育をしてもらえたら。そういう教育は、自分は尊いものだと気持ちを伝える方法であり、いじめの解消につながっていくと思う。 ・何をやるにしても動機があってこそで、その動機は徳育から生まれる。徳育がまずあってその上に知育・体育があるという、動機があって知識をつけて体が動くような流れが重要ではないかと感じた。 ・明治以降、日本が先進国の仲間入りを果たせたのは、勤勉で徳性が高い国民であったことが大きな要因。今後も、幼い頃から、人間として基本的な考え方、生活の仕方、正義感等について学び、考える場を提供することが大切。 ・本県独自の道徳教科書とあるが、道徳教育に県の独自性は不要。もっと普遍的な取組に力を注ぐべき。それは、大人になって父母になったときに、自分たちの子供に対する教育にも影響する。道徳教育は、偏向教育とみられることがあるが、子供が大きくなってどういう親になるのかを踏まえ、道徳教育をすることが必要。 ・自尊感情や自己肯定感の高い子は、勉強に向き合う姿勢も高いので、自己肯定感をはぐくむ情動教育が大事。 |
| | 健やかな体 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後5年、スポーツの分野では「中学校の運動部活動の地域移行を契機とした地域スポーツの再構築」がテーマ。それぞれの地域で、人材や施設、子供たちの希望などを確認して、地域スポーツ環境を構築していく、大きな転換点。指導者は絶対的に足りない。学校と連携した地域スポーツの在り方を考えることが重要。 ・部活動が地域に移行され、外部指導者が担うようになると、競技の勝敗にこだわる流れが強くなるのではないか。部活動は、先生との毎日の関わりの中で、勝ち負けや人間関係を通して、学びを深めていくところである。外部指導者の方には、そういう面での自己研鑽の場をもってもらえるとありがたい。 ・飽食の時代で、子供たちは食べ物を粗末にするし、好き嫌いも激しい。しかし今後、豊かな食は長くは続かない。ゆえに、第1次産業をもっと大切に作る社会にならないといけない。 |
| | 不登校 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くことが前提なのか。学校の中で社会性をはぐくめる生徒ばかりではないので、人間の多様性を包摂できるような観点があればよい。 |
| | 様々な教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・政治経済についての教育を推進していくような内容を織り込んでもらえないか。 ・今や脱炭素やSDGsの時代。今の若い人が安心して暮らせる社会づくりのため、環境等について幼いころからかみ砕いて教えていくことは将来非常に役に立つ。 ・18歳で大人と同じように扱われるので、今後は、民法上の契約とは何かということを教えていくべき。 |
| | ICT・DX | <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用とともに、ICTそのものを教えることも必要。第3期の成果検証で、プログラミング教育を全国に先駆けてやってきた成果が評価されていない。1人1台端末をどういうふうを活用していくのかという教育の観点が必要になってくる。 ・EC（電子商取引）を活用して梅・みかんなどをビジネスにするなど、何かの目標を達成するためにICTを使いこなすという視点を加味できるとよい。 ・ICTの負の側面も、教育の中で、事例とともに学んでいければよい。ICTの負の側面を理解した上で、ICTを目的に応じて使いこなせるようになる必要がある。 |
| | コミュニティ・スクール | <ul style="list-style-type: none"> ・コミスクの地域連携は、お手伝いレベルのところも結構ある。もっと責任をもって子供の教育や発育に関わる仕組みを生かして行ってほしい。 |
| | スポーツ・文化芸術 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツにしても芸術にしても、成果主義に陥らないように。指導者が子供の心をわかっていないケースもあるので、子供の心と発達を理解した指導者になってもらいたい。 |
| 文化芸術の振興 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設を学校教育の中で活用して、子供たちが絵本や音楽など身近な文化芸術に触れる機会があれば、いじめをなくすことにもつながるし、興味が喚起され学力にもつながると思う。 | |